

センターによく寄せられる質問とその回答集

’99 年度版

本稿¹は、指導員室に寄せられる質問を中心に、Email/NetNews などによる質問、スーパーコンピューティングニュース付録の質問状による質問の中から、

センター固有の事柄で、他の文献を見てもわからないもの

を中心に(したがって、UNIX の使い方とか、一般的な FORTRAN の文法、特定の application の使い方に関する質問などは記述していません) 2000 年 4 月 1 日時点での状況をまとめたものです。

前半は、上記のような質問とその回答を

- ・ 登録方法
- ・ UNIX 系のシステム (m-unix, sr8000-s, sr8000-p 及び scalar-mpp) 全般
- ・ OSF/1(m-unix) 関連
- ・ scalar-mpp 関連
- ・ sr8000-s, sr8000-p 関連
- ・ VOS3 関連
- ・ ファイル転送、PC からの利用等
- ・ その他

に分けて記述してあります。また、最後に、主に指導員から寄せられた「困った質問」(答えようがないものが多い)についてまとめてあります。

1 Frequently Asked Questions and Answers

1.1 登録方法

(Q) センターでは、どんなコンピューターが使えるの? 各々の特色は?

(A) センターのシステムは、次の 3 種類の大規模で高性能なコンピューターシステム

- ・ ベクトル並列型スーパーコンピューター HITACHI SR8000
- ・ 超並列型スーパーコンピューター HITACHI SR2201
- ・ 汎用大型計算機 HITACHI MP5800/320

を中心に構成されていて、各々のシステムの特徴を生かした様々なサービスが行われています。

利用可能なホスト名は、2000 年 5 月現在、次のとおりです。

VOS3 系

m-vos 汎用大型計算機 MP5800 上で動いている VOS3

¹ ここ数年の同じ号(センターニュース Vol.27,28,29 および 30, No.3)にも同様の記事を掲載していますが、その後新しく寄せられた質問、およびセンター側の状況の変化をふまえて、内容を修正してあります。特に、ここ一年あまりの間に、ベクトル並列スーパーコンピューターの利用が進んで質問も増えていきますし、質問の形態も電子メールによるものが増大し、その結果、かなり深い内容のものが増えています。質問および回答集としては当然のことながら、本稿のかなりの部分は、従来のものと変化はないのですが、4 月から新しくユーザーになられた方もいますし、いちいちバックナンバーを参照するのも大変でしょうから、この記事だけを見ればわかるように重複する部分もそのままにしてあります。

UNIX 系

m-unix	汎用大型計算機 MP5800 上で動いている OSF/1 UNIX
scalar-mpp	超並列型スーパーコンピューター SR2201。OS は HI-UX/MPP (UNIX) 他のサービス機と異なり、月額一定の固定料金となっている。
sr8000-s	ベクトル並列型スーパーコンピューター SR8000 (ノード共有システム)。OS は HI-UX/MPP (UNIX)
sr8000-p	ベクトル並列型スーパーコンピューター SR8000 (ノード占有システム)。OS は HI-UX/MPP (UNIX)
macsyma	macsyma を利用するための WS (login はできない)
Mathematica	mathematica を利用するための WS (login はできない)
Frontend	MSC/NASTRAN のプリ・ポストプロセッサを利用するための WS (login はできない)
x-controller1	センター内にある X 端末を利用する。
io-controller	センター内にある WS を用いて、QIC・8mm・DAT などの磁気テープメディアを利用する。

(Q) 電子メールやインターネットを使いたくてアカウントを取得したのですが、どのシステムを使えばよいのでしょうか？

(A) m-unix (汎用大型計算機 MP5800 上の OSF/1 UNIX) 上でご利用下さい。

(Q) macsyma や mathematica を使いたい。

(A) 専用の WS である macsyma や mathematica に登録した後、m-unix から、それぞれ macsyma や math コマンドで利用できます。バージョンは、macsyma が Release 418.12、mathematica が Version 2.2 です。詳細は、センターニュース記事「数式処理システム macsyma, mathematica 公開のお知らせ」(Vol.28, No.4 (1996 年 7 月), pp.10-11) を参照してください。

(Q) SAS を使いたいのですが、(SAS 自体は知っているんだけど) センターではどのシステムでどういう風に使うの？

(A) SAS は、m-vos (汎用大型計算機 MP5800 の VOS3) 上でだけ利用可能です。利用方法については、センター発行の「プログラムライブラリ利用の手引」を参照して下さい。

(Q) m-unix や scalar-mpp, sr8000-s, sr8000-p (UNIX) を使いたい。

(A) 新規登録後は VOS3 系にだけ登録されており、他の UNIX 系のシステムを利用するには各々に登録が必要です。その登録を行うには、m-unix, sr8000-s または scalar-mpp に newuser という login 名で login し、指示に従って下さい。VOS3 でのユーザー名 (利用者番号)、初期パスワード、利用したいホストの順に入力します。

(Q) login 名 newuser で m-unix に login しても、m-unix に利用登録できない。VOS3 Password を入力した所で、incorrect になってしまう。

(A) newuser の際に使うパスワードは、ユーザー登録した時の VOS3 のパスワードが必要です。新規に登録した方は、その際にセンターから送られてくる書類に書かれている文字パスワードを小文字にした文字列が、それに該当します。どうしてもパスワードがわからない方は、利用承認通知書と身分証明書を持って、センター 3 階事務室共同利用掛までお越しください。

(Q) 他の大型センター (国立情報学研究所を含む) の計算機を利用したい。

(A) m-vos から SINSEI コマンドを使って、第 2 センターとして登録し、予算の移し替えを行ってください。各センターでの登録時の初期パスワードについては、各センターから送付される利用承認書等の説明をお読みください。

(Q) パスワードを忘れた。

(A) 利用承認通知書と身分証明書を持って、センター 3 階事務室共同利用掛までお越しください。

(Q) login しようとしたら、Account disabled と表示されて接続を拒否されてしまう。

(A) センターではセキュリティー向上のためログイン時のパスワード入力に連続して 5 回以上失敗した場合、そのアカウントをロックするよう設定しています。パスワードの入力の際には、十分に注意して下さい。解除には、共同利用掛 (03-5841-2717) までご連絡下さい。

(Q) 殆ど使った覚えが無いのに、いつの間にか予算オーバーになってしまった。

(" you do not have budget " と言われて、m-unix や sr8000-s,p に login できない。)

- (A) ・ 超並列機 scalar-mpp に登録した後は、利用の有無や多少によらず、同システムの使用する PE 数による利用負担金とファイル課金に対する月額一定の固定料金を月初めに課金しています。このため、センターのどのシステムを使用しなくても scalar-mpp に登録してある限り、定期的に課金がなされ予算オーバーになってしまうということがあります。
- ・ VOS3 上に大容量のファイルを保存していませんか？
これらのシステムでディスク上にファイルをおいておくと、その分の負担金は日々課金されていきます。
 - ・ m-unix か sr8000-s,p のファイル上限値を必要以上に大きくしていませんか？
これらのシステムのファイル課金 (/home) は、月初めに定期的に課金しています。上限値設定は、newuser 手続きで変更できます。

(Q) scalar-mpp から登録を抹消したのに、消えていない。

- (A) UNIX 系システム (m-unix, sr8000-s,p, scalar-mpp) では、月額一定の固定料金を月初めに課金するという課金体系を取っているため、登録の抹消は、コマンド投入した月の翌月からとなり、その月いっぱい使えてしまいます。m-unix, sr8000-s,p でも、ファイル課金について同様な課金体系のため、翌月の抹消となります。

(Q) 現時点での課金を調べるには？ (VOS3 : m-vos の場合)

- (A) LOGON, LOGOFF 時のメッセージからわかります。すでに LOGON している状態からは、

```
>> TRLIST USERRESULT
```

または、

```
>> LA
```

を使うことにより、現在の課金状況がわかります。ただし、実行中のジョブについては、反映されていません。(もちろん、待ち行列に並んでいるジョブについても反映されません。)

(Q) 現時点での課金を調べるには？ (OSF/1 : m-unix の場合)

現時点での課金を調べるには？ (HI-UX/MPP: sr8000-s,p, scalar-mpp の場合)

- (A) % la -a

で出力されます (list account の略)。ただし、CPU 使用料については 1 時間ごと、/short ファイル使用料については 1 日に 1 回、課金していますので、前回の課金契機での値です。もちろん、待ち行列にあるジョブや実行中のジョブについては反映されていません。/home ファイル使用料は利用者の newuser によるファイル量宣言値で決定しており、月初めか使用量増加時に課金します。なお、sr8000-s,p および scalar-mpp でも la コマンドが利用できます。ただし、課金額の情報の更新は 1 日 1 回です。(日付、時刻をご確認下さい。)

(Q) 課金番号を使い分けるには？ (VOS3 : m-vos の場合)

- (A) VOS3 では、当該 TSS セッションまたはジョブに対してだけ、標準でない課金番号を指定したいのであれば、

```
LOGON 時      LOGON ..... A(課金番号)  
バッチジョブ // ..... JOB (*****, 課金番号) .....
```

とします。また、標準の課金番号を変更するには、TRCH コマンドを使います。

```
>>TRCH ATTR,AC(課金番号)
```

(Q) 課金番号を使い分けるには？ (OSF/1 : m-unix, HI-UX/MPP : sr8000-s,p の場合)

- (A) m-unix, sr8000-s,p では、

login 時 login: 利用者番号 課金番号
NQS バッチジョブ スクリプト中に #@\$-AC 課金番号 の記述を書く、
 または、qsub コマンドでオプション -AC 課金番号 を指定する。

また、標準の課金番号の変更は newuser で行います。

(Q) scalar-mpp で標準の課金番号を変更するには？

(A) scalar-mpp に newuser で logon し、ホスト名として scalar-mpp を選択して変更します。課金番号は翌月から変更されます。ジョブ毎に課金番号を指定することはできません。

(Q) scalar-mpp でファイル上限値を変更するには？

(A) scalar-mpp に newuser で login し、ホスト名として scalar-mpp を選択して変更します。

(Q) 利用者番号を異動後も継続できないか？

(A) 東大センターでは、平成 6 年度より、仮継続の手続きが出来るようになり、これにより 4 月 15 日までに異動先の経理責任者の承諾が得られれば、同一の利用者番号によって継続することが可能となっています。所属センターが東大センター以外の場合、各センターの取り扱いに依ります。

1.2 UNIX 系のシステム (m-unix, sr8000-s,p 及び scalar-mpp) 全般

(Q) m-unix のデーターを、テープに落したい。

(A) UNIX 系のシステム (m-unix, scalar-mpp) からは、8 mm, DAT, QIC, 1/2 インチオープンリール磁気テープ、および、1/2 インチカートリッジ磁気テープの 5 種類のテープ装置を、WS io-controller を介して利用することができます。利用可能な磁気テープの種別と利用法の詳細については、センターニュースの記事「UNIX システムにおける磁気テープ装置の使い方」(Vol.29, No. 3 (1997 年 5 月), pp.27-31) を参照して下さい。
なお、sr8000-s,p については準備中です。

(Q) m-unix からプリンターに出力したい。

(A) UNIX 系のシステム (m-unix, scalar-mpp) には、1996 年 7 月より、ネットワークプリンター (白黒、PostScript とテキストの両方出力可能。両面・片面各 1 台) と、フルカラープリンター (PostScript。用紙出力用と OHP フィルム出力用の各 1 台) が接続されています。利用法の詳細については、センターニュースの記事「UNIX システムにおけるプリンターのサービス開始について」(Vol.28, No. 4 (1996 年 7 月), pp.8-9) を参照して下さい。
なお、sr8000-s,p については準備中です。

(Q) FORTRAN プログラムで長い名前の変数を使いたい。

(A) UNIX システム (m-unix, sr8000-s,p および scalar-mpp) における FORTRAN77 プログラムでの 変数名の長さは、m-vos の運用に合わせ標準で 8 文字以内に制限されています。9 文字以上の変数名および外部手続き名を使用する場合は、コンパイルオプション testmode(n(0)) または vos3(nosymnchk) および -i,U を指定して下さい。(-i,U は、外部手続きの名称中の_(アンダースコア) および 31 文字 までの外部手続き名称を許すオプションです。)

```
【例】 % f77 -W0, 'testmode(n(0))' -i,U a.f  
      % f77 -W0, 'vos3(nosymnchk)' -i,U a.f
```

(Q) WS で動いていた FORTRAN プログラムを m-unix 上で動かしたい。

(A) 取りあえずコンパイルしてみると、膨大な量のメッセージが出てきて驚かされることがしばしばあります。その代表的な例および原因と対処法は次のとおりです。

. 8 文字より長い変数名を使っている。前項のとおりコンパイルオプションで対処する。

. 「原始プログラム中に許されない文字が現れました」

?, !, \$, " などの特殊文字が使われている場合は言語仕様の拡張が必要です。

コンパイルオプション `-i,P` や `-i,{E,N},LT` を指定して下さい。

また、注釈以外での漢字コードはシフト JIS コードをご使用下さい。

. 浮動小数点の定数として不適当な値がある。

浮動小数点については、m-unix で扱う M 形式 (IBM 形式) と、WS や PC で一般的な IEEE 形式とでは、表現も表示値の範囲も異なることに注意して下さい。

詳しくは、センター発行の手引「東大センターにおける UNIX システム入門」(第2版)等を参照して下さい。

なお、scalar-mpp および sr8000-s,p の単精度、倍精度浮動小数点形式については IEEE 形式に準拠しています。詳しくは「HI-UX/MPP for SR8000 最適化 FORTRAN77 使用の手引 (6A30-3-314) 付録 D」、センターニュース Vol.30 No.6 (1998.11)「SR8000 システム上の FORTRAN 処理系と従来システム上の FORTRAN 処理系との互換性」をご覧ください。

. 「分類不可能な文があります」

プログラムが自由形式で書かれていませんか？

そうならばコンパイルオプション `-W0,'form(free)'` を指定して下さい。

これだけの対処をしてやれば、メッセージの量がかなり減るはずですが。後は入出力関連や(時間の計測等の)処理系固有のルーチンを使っていないかチェックする必要があります。

センターで利用する FORTRAN 処理系の詳細については、マニュアル

HI-OSF/1-MJ 最適化 FORTRAN77 使用の手引	(8X20-3-111)
HI-UX/MPP 最適化 FORTRAN77 使用の手引	(6A20-3-314)
HI-UX/MPP 最適化 FORTRAN90 使用の手引	(6A20-3-311)
HI-UX/MPP for SR8000 最適化 FORTRAN77 使用の手引	(6A30-3-314)
HI-UX/MPP for SR8000 最適化 FORTRAN90 使用の手引	(6A30-3-311)

を参照して下さい。

(Q) m-unix, scalar-mpp, sr8000-s,p の FORTRAN のコードで、WS と共通の生のバイナリーのデータを読み書きしたいのですが、どうすればいいですか？

(A) FORTRAN で用いるバイナリーデータ(書式なし)のファイルについて、m-unix, scalar-mpp, sr8000-s,p 上と WS 上とでは、

- ・ ファイル形式の違い
- ・ 浮動小数点の数値表現の違い

という 2 つの違いがあります。

前者については、m-unix, scalar-mpp および sr8000-s,p の FORTRAN では、書式なし入出力に対応するファイルは、標準状態では、業界標準の形式とは異なる日立独自形式を使用しています。m-unix, scalar-mpp および sr8000-s,p 上の FORTRAN で WS 上の FORTRAN で作成したバイナリーデータのファイルに対し入出力を行う場合は、実行時オプション `-F'port(stduf)'` (または `-F'port(dstduf)'`) を指定した上で書式なし入出力を行ってください(stduf と dstduf とでは、ファイル終了記録検出後の

BACKSPACE 文の動作が異なります。詳しくは、センターニュース記事「最適化 FORTRAN 実行時オプションの紹介」(Vol.29, No.6 (1997 年 11 月), pp.41-53) を参照。また、C 言語などで(ヘッダ情報のない)生のデータ列のみを書き出したファイルに対して FORTRAN で入出力を行いたい場合には、ファイルを直接探査ファイルとして OPEN し、同じく実行時オプションを指定によりこの変換機能が有効となります。

1. 実行時オプション -F'port(ieee)' を指定する。
2. 入出力ファイル名を環境変数で指定する場合、環境変数 FTtxEyyy (5 桁目が E) で指定する。

```
(例) % setenv FT50E001 a.data
      % setenv FT60E001 a.result
      % a.out
```

なお、詳しくは、センター発行の手引「東大センターにおける UNIX システム入門」(第2版) もしくは、センターニュース記事 Vol.27, No.2 「s-unix, m-unix での FORTRAN, C, NQS あれこれ」(Vol.27, No.2 (1995 年 3 月), pp.73-84) 「同、その2」(Vol.27, No.3 (1995 年 5 月), pp.65-76) およびスーパーコンピューティングニュース Vol.1 No.3 「UNIX システム利用入門(中級編)」 pp.68-96 を参照してください。

- (Q) FORTRAN プログラムで入出力バッファを flush したいのですが、そのような機能のサブルーチンがありますか? そのライブラリの名称は?
- (A) UNIX システム(m-unix, sr8000-s,p および scalar-mpp) 上の FORTRAN 処理系には、flush というサービスサブルーチンが用意されており、このサブルーチンを call することにより、入出力バッファに溜まった内容をディスクに書き出すことができます。

```
call flush[(n)]
n 入出力バッファを flush する装置番号(0 ~ 99)
省略時は、すべての装置番号が flush される。
```

このサブルーチンは日立の FORTRAN 処理系に標準で備わっているもので、リンクの指定等は特に必要ありません。

- (Q) ライブラリ MSL2 を使うには?
- (A) 日立提供のライブラリとしては、MSL2 及び MATRIX が、m-unix, sr8000-s,p および scalar-mpp 上で各々のマニュアルに記述された標準的な形態で登録してありますから、マニュアルの記述どおりに利用することができます。但し、センターでは、f77 コマンドを用いてリンクする場合、-L オプションの指定は必要ありません。

```
(例) f77 ... -lmsl2 ...
```

詳しくは、センター発行の手引「東大センターにおける UNIX システム入門」(第2版) をご覧ください。

scalar-mpp, sr8000-s,p 上では、ライブラリの指定は -IMSL2 となります。

- (Q) UNIX(m-unix, sr8000-s,p および scalar-mpp) 上で '.... command not found' というメッセージが出て、コマンドを受け付けてくれない。
- (A) センターでは、UNIX 系のシステムへの newuser 登録時に、コマンドパス等を設定するファイル .cshrc を初めとした幾つかのファイルをホームディレクトリに自動的に作成しています。このファイルを削除したり、中の記述がおかしくなってしまうと、正しい設定が行われなくなり、標準的なコマンドも使えなくなってしまうことがあります。この .cshrc というファイルや .login, .profile (さらに scalar-mpp では .express.cst) といったファイルの標準的なものは、/usr/local/skel にあり、各自で適宜コピーし回復することができます。rcchange コマンドを投入することにより、このコピーが行われ初期状態に戻すこと

ができます。(sr8000-s,p では準備中です。)

- (Q) nslookup や traceroute を実行すると Permission denied となる。
w や ps -ax と入力したときに、自分以外のプロセスが見あたらないのですが。
- (A) m-unix, sr8000-s,p および scalar-mpp では、管理者用のコマンドについては、一般利用者は実行できないように設定してあります。また、ps, w などのシステムの状態を表示するコマンドについては、システム管理者以外の一般ユーザーが使った場合、本人に関する情報のみを表示するように設定してあります。

1.3 OSF/1 (m-unix) 関連

- (Q) m-unix で漢字がうまく表示できない。
m-unix で compiler からのメッセージが、文字が化けて読めない。
mailx コマンドで、mail を出そうと日本語を入力すると文字が化ける。
- (A) m-unix では、入出力する際の漢字コードを JIS コード (正確には、JISX0208-1983) として扱っています。ただし、端末エミュレータ側で、非漢字文字から漢字文字への切り替え (Kanji-Shift-In と Kanji-Shift-Out) に使う エスケープコードとして古いものや正しくないものを使っていると、表示が乱れる場合があります。詳しくは、センターニュースの記事「m-unix / s-unix における漢字の取り扱いについて」(Vol.28, No.3 (1996 年 5 月), p.50) を参照してください。
- (Q) mail コマンドで、一画面より長いメールを見ようとすると、スクロールしてしまって、先頭部分が読めない。
- (A) ファイル .mailrc 中で、

```
set crt=行数
```

を指定します。指定した行数より長い時、PAGER が起動されるようになります。

- (Q) m-unix, sr8000-s,p で、ジョブが途中で終了してしまう。
m-unix, sr8000-s,p で、配列を大きくしたら動かなくなった。
- (A) TSS、NQS の各キューに応じて、CPU time、メモリーなどのリソースを制限していますので、その制限を越えるジョブは流せません。特に、TSS 環境では、メモリーの制限が厳しくなっていますので、大きなメモリーを必要とする場合には、NQS を利用してください。各キューにおける制限値は、スーパーコンピューティングニュース表紙裏にまとめてあります。
- (Q) FORTRAN コンパイラからのメッセージを英語にしたい。
- (A) コンパイル・オプション -WO, 'LISTLANG(E)' を指定する。
- (Q) KCHF 446R というエラー (segmentation violation) は？
- (A) コンパイル・オプション -WO, 'LISTLANG(E)' を指定する。
- (Q) C 言語 (OSF/1 上) に、FORTRAN の SUBCHK 相当のオプションはないか？
- (A) マニュアルを見る限りはない。

1.4 scalar-mpp 関連

- (Q) 超並列計算機 scalar-mpp でのプログラミング手法等について知りたい。

- (A) 並列処理プログラミングに慣れた方ならば、当然、メーカー発行のマニュアル等を参照してもらえば充分でしょう。しかし、普通の利用者が本格的な並列計算を行わせようとした場合、どのようなプログラミングモデルやプログラミング言語を採用すれば良いのか等、これがお勧めと言える物が現在でも見つかっていません。センターでは、scalar-mpp の導入以来、センターニュースやセンター主催の研究会を通して、様々な研究例や事例の紹介をしたり、各種並列計算に関する情報交換の場を設ける等してきており、その結果、有用な情報や know-how が徐々に蓄積されてきています。これらを一読されることをお勧めします。また、show-info コマンドの中には、簡単なプログラム例もありますので、参考にされると良いでしょう。

また、日立発行のマニュアル HI-UX/MPP「並列アプリケーションプログラマーズガイド - FORTRAN -」(6A20-3-025)も参考になります。

- (Q) scalar-mpp のインタラクティブ処理の場合の、CPU 時間の制限値は？

- (A) インタラクティブ実行の制限値は(経過時間で)16 時間が省略値です。また、120 分以上無入力状態が継続する場合は、システムが自動的にキャンセルします。

- (Q) scalar-mpp では、メモリーをどれだけ使えるのか？

- (A) 1PE 当たりで使用可能なメモリーの最大値は、NQS でバッチ処理をする時は 224MB、対話処理(インタラクティブ処理)の時は 192MB です。バッチジョブの場合は、#%\$-IM 値 MB で指定しますが、値としては 224 以下を指定して下さい(この値を越えていると、目的のキューに投入されません)。

また、インタラクティブ処理の場合、datasize が 32MB に標準設定されていますので、必要に応じて limit コマンドで上限値を変更して下さい。

```
% limit datasize 192megabyte
```

- (Q) NQS ジョブを投入したところ、以下のようなメッセージが返ってきて、ジョブが実行できない。

```
Explicit request quota limits exceed maximums;
```

- (A) CPU 時間、メモリー使用量等の指定がキューの上限値を越えていると思われます。この場合、上記メッセージを出力し、ジョブは実行されません。ジョブクラス毎の制限値を越えないよう指定して下さい。

- (Q) scalar-mpp に投入した NQS ジョブを kill する方法は？

qdel しても、次のように、うまくジョブを消せないのですが？

```
% qdel -h scalar-mpp-bt -k 21378.scalar-mpp.cc.u-tokyo.ac.jp
No such request at transaction peer.
```

- (A) 超並列機に投入された NQS バッチジョブは、ホスト scalar-mpp-bt.cc.u-tokyo.ac.jp で処理が行われ、バッチジョブ内から更にバッチジョブを投入すると、その新たなジョブのリクエスト ID は、21378.scalar-mpp-bt.cc.u-tokyo.ac.jp というように、ホスト名の部分が .scalar-mpp-bt.... となります。よって、qdel で削除する場合は、次のように指定します。

```
% qdel 21378.scalar-mpp-bt.cc.u-tokyo.ac.jp
または
% qdel 21378
```

但し、qdel コマンドのオプションにおけるホスト名の指定(-h scalar-mpp-bt)や kill の指定(-k)は、省略可能となっています。

- (Q) 1024 台のキュー P1024 に投入したジョブを取り消す(qdel する)には？

(A) P1024 キューのジョブは、次のように、REQUEST の番号だけを指定して取り消して下さい。

```
% qstat
      REQUEST      NAME      OWNER      QUEUE      ... STATE
      22881.scalar-m asc3.sh   k33369     P1024      ... QUEUED

% qdel 22881
```

(Q) scalar-mpp 上で、メモリー不足 (メッセージ : KCHF602C memory is not enough) で FORTRAN プログラムをコンパイルできない。

(A) プログラムが大きい場合、標準のメモリー配分ではコンパイルできないことがあります。次のようにして、limit コマンドによってコンパイル処理に必要なメモリーを確保した後、コンパイルし直して下さい。

```
% limit datasize 64M
```

(Q) scalar-mpp 上の FORTRAN プログラムで、elapsed time を計測したいのですが、そのための routine は?

(A) FORTRAN 処理系のサービスサブルーチンとして CLOCK というサブルーチンが用意されており、

```
integer p
call CLOCK(p,2)
```

というように第 2 引数の値として 2 を指定して引用すると、引用時の時刻が、秒を単位とする整数値として第 1 引数の変数の値として返されます。この時刻の値の差として、elapsed time を計測することが可能です。

なお、本 CLOCK ルーチンは、第 2 引数の値によって CPU 時間を返す等の様々な機能を有し、かつ、日立の FORTRAN 処理系にほぼ共通のサブルーチンです。

(Q) scalar-mpp で使用できる数値計算ライブラリーにはどのようなものがありますか？また、それぞれどのようにすれば使えるのですか？

(A) scalar-mpp には、2000 年 5 月現在、以下のライブラリーが用意されています。下記の、センターニュースの記事以外のマニュアルは、全て日立発行のマニュアル。

- ・ 数値計算副プログラムライブラリ MSL2
 - HI-UX/MPP 数値計算副プログラムライブラリ MSL2 行列計算 (6A20-7-610)
 - HI-UX/MPP 数値計算副プログラムライブラリ MSL2 関数計算 (6A20-7-611)
 - HI-UX/MPP 数値計算副プログラムライブラリ MSL2 統計計算 (6A20-7-612)
 - HI-UX/MPP 数値計算副プログラムライブラリ MSL2 操作 (6A20-7-613)
- ・ 行列計算副プログラムライブラリ MATRIX/MPP
 - HI-UX/MPP 行列計算副プログラムライブラリ MATRIX/MPP (6A20-7-600)
- ・ 行列計算副プログラムライブラリ スカイライン法 MATRIX/MPP/SSS
 - HI-UX/MPP 行列計算副プログラムライブラリ スカイライン法 MATRIX/MPP/SSS (6A20-7-601)
- ・ BLAS (Basic Linear Algebra Subprogram)
 - 使用方法に関しては以下の日立マニュアル、またはセンターニュースを参照して下さい。
 - HI-UX/MPP MPI・PVM 使用の手引き (6A20-3-026)
 - 「HITACHI SR2201 用 高速版 BLAS ライブラリーのご紹介 (1)」

なお、MATRIX/MPP および BLAS の性能については、センターニュース Vol.29No.1 (1997 年 1 月)「SR2201 の基本性能のご紹介」に紹介されています。

PBLAS (Parallel Basic Linear Algebra Subprogram) および scaLAPACK (Scalable Linear Algebra PACKage)

「HITACHI SR2201 用 ScaLAPACK, PBLAS ライブラリーのご紹介」

センターニュース Vol.30 No.2 (1998 年 3 月) pp.36-58

Gaussian94 (一般的非経験分子軌道計算プログラム)

「超並列型スーパーコンピュータ (scalar-mpp) 上の一般的非経験分子軌道計算プログラム Gaussian94 の公開」

センターニュース Vol.29 No.4 (1997 年 7 月)

(Q) 超並列計算機 scalar-mpp で PVM や MPI は使えるか? 使い方は?

(A) 並列プログラミングのための PVM 及び MPI は、共に、例題も含めて メーカーから提供されており、利用可能です。詳細については、センターニュースの記事「PVM と MPI による並列プログラム」(Vol.28, No. 4 (1996 年 7 月), pp.87-100) を参照してください。

特に、MPI については、コンパイル・リンク時に必要な `-L/usr/mpi/lib/hmpp2/cml -lmpi` や `-I/usr/mpi/include` などの長い指定が省略できるように、`mpif77` と `mpicc` の両コマンドが用意されています。詳しくは、センターニュース Vol.29, No.6 (1997 年 11 月) の「システム変更のお知らせ」をご覧ください。

(Q) scalar-mpp 上の f77 では、標準では、(8 文字より) 長い名前が使えないようですが、PVM や MPI を使うにはどうすればよいのでしょうか?

(A) PVM と MPI には 8 文字のサブルーチン名が用意されています。8 文字に短縮した名称については、オンラインコマンド `show-info`、またはセンターニュースの記事「PVM と MPI による並列プログラム」(Vol.28, No. 4 (1996 年 7 月), pp.87-100) を参照してください。

この短縮した名称のライブラリを用いる場合、リンクの指定は、`-lfpvm3` や `-lfmpi` に代えて、`-lf7pvm3` や `-lf7mpi` とします。勿論、長い名前を有効とするためのコンパイルオプション (`-i,U -W0, 'vos3(nosymnchk)'` または `-i,U -W0, 'testmode(n(0))'`) を指定してコンパイルリンクすれば、PVM や MPI のサブルーチンを元々の名称のまままで利用することができます。

(Q) MPI プログラムをインタラクティブにデバッグする方法は?

(A) インタラクティブのツールとしては、MPI の動きを可視化する `upshot` があります。センターニュース Vol.29 No.4 (1997 年 7 月)「SR2201 MPI, PVM ユーティリティーのご紹介」を参照して下さい。また、SR2201 の並列デバッグツールとしては `ndb` があります。日立発行のマニュアル HI-UX/MPP「並列デバッグ `ndb` 使用の手引」(6A20-3-404) を参照して下さい。

`/usr/mpi/doc/guide.ps.Z` を初めとしたドキュメントは、MPI 開発元であるアルゴンヌ研究所およびミシシッピ大学が配付しているものをそのまま提供しているため、センターで提供しているコマンドとはオプション等が異なる場合があります。コマンドの詳細については、日立発行のマニュアル HI-UX/MPP「MPI・PVM 使用の手引」(6A20-3-026) を参照して下さい。

(Q) scalar-mpp 上の Gaussian94 を利用しています。何か注意すべき事柄はありますか?

(A) Gaussian94 プログラムは、一時ファイルを作成し、正常終了後は自動的に削除しています。その一時ファイルは、通常は `/var/tmp` に作成され、また、しばしば巨大なものとなります。Gaussian94 プログラムが何らかの原因で異常終了した場合、一時ファイルが削除されずに残ったままとなり、巨大なファイルが `/var/tmp` に幾つもたまってしまい、他の Gaussian のジョブが一時ファイルを作成できないという状況が頻発しています。

そこで、センターでは、このような状況を招くことを避けるために、Gaussian の一時ファイルを、一時ファイル削除機能のある `/short` または `/para-io` ディレクトリーに作成することをお勧めしています。NQS ジョブにこの機能を設定するとジョブ実行中に `/short` および `/para-io` に出力されたファイルはジョブ終了時に自動的に削除されます。以下に NQS ジョブの例を示します。

```

#@$$-N 1
#@$$-IT 1:00:00
/usr/sbin/rmfiles          一時ファイル削除の指定
setenv GAUSS_SCRDIR /para-io/利用者番号 一時ファイル用ディレクトリーの指定
g94 ....

```

(Q) Gaussian の JOB が流れない。

(A) Gaussian94 は実行時に大容量の一時ファイルを /var/tmp に出力します。特にエラーにより実行が中断された場合には大容量ファイルが /var/tmp に残ったままとなります。このため /var/tmp ディレクトリーが満杯になり、以後の Gaussian プログラムが実行できなくなる場合があります。/var/tmp ディレクトリーが他の利用者と共有していますので、他の利用者の迷惑とならないよう必ず以下のように処理を行なうようお願い致します。

インタラクティブ (ログイン) の場合

```
% rm -f /var/tmp/g94-*
```

バッチジョブの場合

```
% qsub
rm -f /var/tmp/g94-*
^D      (CTRL キーを押しながら D)
```

(Q) NQS の計画停止に引っかかる。

(A) scalar-mpp に投入された JOB のうち、システム停止予定時刻 (計画停止時刻) までに終了しない JOB については実行しないよう設定しています。停止時刻直前まで実行するためには、実行時間制限値 (#\$\$-IT) で JOB の終了が計画停止時刻を超えないよう指定してください。計画停止時刻と残り時間は qstat コマンドで確認することができます。Gaussian94 専用のコマンド (subg94) を使用する場合には以下のように指定します。

```
% subg94 g94.com "-IT 1:00:00"
```

1.5 sr8000-s, sr8000-p 関連

(Q) 要素並列実行とは？

(A) 要素並列化機能とは 1 ノード内 8 プロセッサ (の複数プロセッサ) を並列に利用してプログラムを高速実行させる機能です。コンパイルオプションやソースプログラム中の指定によりコンパイラーが要素並列化オブジェクトを作成します。実行は sr8000-p がバッチジョブ (要素並列実行可能なジョブクラス) で行ないます。

コンパイル例

```
% f77 -parallel program.f
```

リンク時にも必要です。

```
% f77 -parallel program.o object.o
```

センターニュース Vol.30 No.6(1998.11)「SR8000 システム上の FORTRAN 処理系と従来システム上の FORTRAN 処理系との互換性」詳細はメーカー発行のマニュアルを参照して下さい。

```

HI-UX/MPP 並列アプリケーションプログラマーズガイド -FORTRAN- (6A30-3-025)
HI-UX/MPP 並列アプリケーションプログラマーズガイド -C-      (6A30-3-022)
HI-UX/MPP 最適化 C 使用の手引                               (6A30-3-302)
HI-UX/MPP 最適化 FORTRAN90 使用の手引                       (6A30-3-311)

```

(Q) ノード占有 / 共有とは？

(A) SR8000 では複数の利用者で1 ノードを共有する利用形態 (ノード共有) と、1 利用者が1 ノードを独占する利用形態 (ノード占有) の 2 通りがあります。ノード占有の場合は要素並列ジョブ、ノード内並列ジョブの実行が可能です。

ノード共有となる場合

ログインセッション sr8000-s
バッチジョブ (キュー A ~ F)

ノード占有となる場合

ログインセッション sr8000-p および sr8000-p で使用した並列実行ノード
バッチジョブ (キュー A-ES ~ F-ES, P001 ~ P016)

(Q) SR8000 の課金は？

(A) SR8000 の課金に使用する CPU 時間の定義は利用するノード (占有 / 共有) によって異なります。

ノード共有のとき

ジョブ (セッション) の使用した CPU 時間で課金します。

ノード占有のとき

ジョブ (セッション) がノードを占有した時間 (経過時間) の 8 倍を CPU 時間とみなして課金します。

SR8000 の 1 ノードは 8 プロセッサで構成されており、ノード占有の場合、一利用者がノード内の全プロセッサを占有してしまうため、実際使用したプロセッサ数に関わらず、8 プロセッサを効率的に使用したものとみなしてノード占有時間 (経過時間) を 8 倍した値について課金します。ノードを占有したときは無駄なく使って頂くことを目的としています。

(Q) sr8000-p (インタラクティブ並列実行サブシステム) とは？

(A) 要素並列 (ノード内並列) プログラムをインタラクティブに実行できるサブシステムです。ログインすると 1 利用者が 1 ノードを確保、占有するのでノード内の 8 プロセッサを用いた並列実行ができます。また、2 ノードまでのノード間並列実行も可能です。

```
% prun -n 2 program
```

(Q) sr8000-p にログインできない。

(A) You are prohibited in this system.

sr8000-p にログインできるのは 1 ユーザー 1 セッションのみです。

(Q) sr8000-p で並列実行ができない。

(A) sr8000-p でのノード間並列実行は 2 ノードまで可能です。3 ノード以上の並列実行はバッチジョブをお願いします。

prun で指定した場合、実行時にエラーとなります。

```
prun : can't allocate nodes in ALL. : Too many allocate node
```

(Q) プログラムサイズが 2GB を超えるとコンパイルできない。

```
KCHF640C 16 program size is too large.
```

(A) プログラムサイズが 2GB を超える場合は 64 ビットアドレッシングモードでのコンパイルが必要です。-64 オプションを指定し

ます。

```
% f77 -64 program.f
```

バッチジョブによる実行はメモリー制限値の指定 -IM、インタラクティブ (sr8000-p) での実行は limit コマンドによる addressspace の拡張が必要です。

```
% limit addressspace 2200 (2200MB のとき)
```

64 ビットモードについての詳細はセンターニュース Vol.30 No.6 (1998.11)「SR8000 システム上の FORTRAN 処理系と従来システム上の FORTRAN 処理系との互換性」を参照して下さい。

(Q) MATRIX/MPP を使用したプログラムがコンパイルできない。

(A) 以下の 3 点にご注意下さい。

1. コンパイルオプションの位置

```
Id: 1012 error : Undefined symbol: .HDFT2M
```

-lmatmpp はオプションの一番最後に指定して下さい。

```
% f77 -parallel program.f -lmatmpp
```

2. 要素並列オブジェクトの作成

```
Id: 1012 error : Undefined symbol: _h_comp_link_var
```

```
Id: 1012 error : Undefined symbol: _h_total_ip_num
```

-parallel を指定して下さい。(要素並列オブジェクトのリンク)

```
% f77 -parallel program.f -lmatmpp
```

このとき実行は sr8000-p またはバッチジョブ (要素並列実行可能なジョブクラス) をご利用下さい。

要素並列オブジェクトを作成しないで利用する場合は以下の指定をして下さい。

```
% f77 program.f -lmatmpp_sc
```

3. 64 ビットアドレッシングモード

MATRIX/MPP は 64 ビット版ライブラリをサポートしています。-64, -lmatmpp オプションを指定することにより、64 ビット版 MATRIX/MPP を自動的にリンクします。

```
% f77 -64 program.f -lmatmpp
```

(Q) MPI のプログラムを動かしたい。

(A) MPI 関連コマンドのパスは /usr/mpi/bin です。コンパイルコマンドは mpif77, mpif90, mpicc, 実行コマンドは mpirun を使用して下さい。

(Q) MPI 実行のノードとプロセスの関係は？

(A) mpirun のオプション -n には使用するノード数を指定、-np はプロセス数を指定します。プロセス数がノード数より多いと 1 ノード内に複数のプロセスが起動します。1 ノード内での複数プロセスの実行 (ノード内 MPI) はノード内 MPI の各プロセスが 1 プロセッサに集中してしまうことにより、プロセスの実行性能とプロセス間通信性能が落ちます。暫定的な回避策として要素並列プログラムではないプログラムをノード内 MPI で実行する場合に環境変数 JOBTYP に SS (スカラージョブでノード共有)を設定する方法があります。以下のようにスクリプトファイル中に記述すること

でお試し下さい。

```
#@$-q parallel
#@$-N 2
#@$-J SS
mpirun -n 2 -np 8 a.out
```

(Q) MPI のプログラムが動かない。

(A) Error : Unable to allocate resources for 2 processes in partition ALL

sr8000-s での MPI の実行はできません。sr8000-p またはバッチジョブ (ノード占有可能なジョブクラス) をご利用下さい。

1.6 VOS3 関連

(Q) データセットのファイル上限値を変更したい。

(A) VOS3 の長期データセットを基本負担金に含まれる上限値を超えて利用する場合には、「大型計算機システム届出書」を提出する必要があります。詳細は、総合受付 (03-5841-2716) までお問合せ下さい。

(Q) FSHOW 等のコマンドが実行できない。

コマンドプロシージャが動かない。

(A) コマンドプロシージャは、コマンド PROF PROC(データセット名) で指定しないと利用できません。逆に、PROF PROC で指定したコマンドプロシージャのデータセットを誤って消去してしまうと、全てのコマンドプロシージャが利用できなくなります。この場合は、コマンド PROF NOPROC で指定を解除します。

また、コマンドプロシージャのデータセットとして、他の利用者番号のデータセットを指定していて、アクセス権限を失ったり、その利用者番号が継続されていなかったりした場合にも、同様です。

(Q) CGO コマンドを使うと、command not found というエラーになる。

(A) 割り込みキーを押した場合など、USE 下から出てしまうことがあります。もう一度 USE コマンドを投入すれば、CGO 等の TOOL 系のコマンドが使えるようになります。

(Q) センター内に設置されているプリンターの DEST 名 (出力先識別名) を知りたい。

(A) コマンドマニュアルの付録 F に一覧があります。コマンドマニュアルは、総合受付に請求すれば入手できます。

(Q) 複数のバッチジョブの結果が output queue に残っているが、この中から必要なものだけをプリントアウトし、後は queue に残しておきたい。

(A) プリントアウトしたいものだけを、

```
>> CHGDEST ジョブ番号 DEST(A4)
```

などのようにすることにより、DEST(T) 以外のところへ出力することができます。または、バッチジョブの結果全てを一度 OUTPUT コマンドでデータセットに保存してから、必要なものだけを出力してください。

(Q) FORTRAN のソースをコンパイルすると、JOK0511 (END 文が現れる前に SYSIN データセットが終了しました) というエラーが出る。

(A) このエラーは、パソコンや WS 上で作成したプログラムを VOS3 上に持ってきた場合によく聞くものです。エラーの意味はメッセージのとおりで、ファイル末尾に空行や注釈行が存在するために起きるエラーで、FORTRAN の文法にのっとったものです。つ

まり、FORTRAN では、空行や注釈行は新たなプログラム単位の始まりと解釈され、そのプログラム単位を終了する END 文が必要となりますが、こういった行がファイルの末尾に在る場合、一見（他の言語では）プログラムが終了しているように見えても、このような約束があるためエラーとなります。対処法は、言うまでもなく、ファイル末尾の空行（及び注釈行）を削除することです。

(Q) FORTRAN のプログラムをコンパイルすると、オブジェクトが 16 MB より大きくなってエラーとなる。

(A) DCOM オプションでコンパイル。

(Q) FORTRAN コンパイラの出力が英語（日本語）になっているので、日本語（英語）にしたい。

(A) コンパイルオプションで、NLIST (ELIST) を指定してください。

(Q) データセットを他人にコピーさせたい。

(A) VOS3 では、特に許可しない限り他人のデータセットを読むことはできません。自分のデータセットを他のユーザーに読ませたい場合には、TRPERMIT コマンドで 許可を与えてください。

(Q) データセットを他の利用者番号に移すには？データセットの譲渡の方法は？

(A) TRTRANS, TRRECEIV コマンドを使う。総称文字を指定すれば、ある利用者番号下にある全てのデータセットを別の利用者番号の下に移すことも可能です。

(Q) バッチジョブの CPU time の上限に、ジョブクラスの制限値よりも小さい値を指定したい。

(A) JOB 文で、CPU time の上限値を指定することができます。

```
//A12345EX JOB ***** ,CLASS=E,TIME=150,...
```

(Q) telnet（インターネット経由）で m-vos の TSS 利用時に、画面出力を行うと、画面がどんどん流れていってしまう。

(A) telnet での接続の直後に端末タイプを問われますので、その際、MP5800F を指定すれば流れなくなります。また、MP5800L を指定した場合でも、

```
>> TERM LINES(23)
```

などと入力することにより、画面出力行数を制御することができます。

(Q) ジョブが途中で終了してしまう。

(A) TSS、バッチジョブのクラスに応じて、CPU time などのリソースを制限していますので、その制限を越えるジョブは流せません。各クラスの制限値（上限値）は、スーパーコンピューティングニュース表紙裏にまとめてあります。

(Q) センターで使用できるライブラリの一覧を見たい。

(A) センター発行の「プログラムライブラリ利用の手引」（第 8 版）に一覧、概要、簡単な利用法、参考文献等が掲載されています。

(Q) ライブラリの xxx が使えない。

(A) センター発行の「プログラムライブラリ利用の手引」（第 8 版）に記載されているライブラリプログラムの中には、計算機の更新時に移行ができなかった等の理由により、既にサービスを中止しているものがあります。詳しくは、以下のセンターニュースまたはスーパーコンピューティングニュースの記事を御覧ください。

「システム変更のお知らせ 3.3 数値計算ライブラリプログラム NAG の サービス終了」

(Vol.1, No.1 (1999 年 5 月), p.27)

「HITAC M-682 用ライブラリプログラム (ALIS, DSCAN, FINAS, GAUSS80H, JAMOL3, ORIGEN2, UNICS3) の

サービス中止のお知らせ」(Vol.28, No.1 (1996 年 1 月), p.10)
「プログラムライブラリのサービス中止について」及び「-Flow (汎用 3 次元流体解析システム) 試験運用終了
のお知らせ」(共に、Vol.29, No.1 (1997 年 1 月), p.6)

また、SPSS については、R4.1 版の公開に伴い、コマンド名は SPSSX から SPSS に変更されました。詳細については、センター
ニュースの記事「新版の SPSS 統計パッケージの公開について」(Vol.28, No.3 (1996 年 5 月), pp.58-65) を御覧ください。

- (Q) 化学文献データベース CASTOR が動かない。
(A) 2 つの場合が考えられます。次の事柄を確認して下さい。
- ・ CASTOR は汎用大型計算機 HITACHI MP5800 (m-vos.cc.u-tokyo.ac.jp) でのみ運用しています。
 - ・ 基本領域のメモリーが 6000KB 以上必要です。LOGON 時に、SIZE (7000) のように指定してください。
(TRCH UATTR,SIZE() というコマンドで、この標準値を設定してしまうことも可能です)
- (Q) CASTOR で検索中、大量件数のデータグループ相互の差をとろうとすると、SORT 領域不足でエラーとなる。
(A) 本システムの物理的限界です。20 万件位に分けてソート作業をしてください。

1.7 MT (磁気テープ) 関連

- (Q) センターで作成した MT のコードは？
(A) アルファベットコードは EBCDIC または EBCDIK が利用できます。また、漢字コードは KEIS です。
- (Q) VOS3 上のデータを MT に記録して、IBM で読みたい。
(A) オープンリールテープならば、9トラック、6250 または 1600 BPI で記録すれば、読むことができます。または、カートリッジ
テープを利用してください。なお、内部データコードについては、FCONVERT コマンド等を用いて EBCDIK から IBM コードに
変換してください。
- (Q) MT で ALL BACKUP しようとする、履歴採取の段階でエラーになる。
LOGON 時に JBB483I 081-00 (224-044-JHHVCTRF) と出る。
(A) JBB483I はカタログ常駐化の時に出るエラーです。OMT の ALL BACKUP 機能は、データセット数が 850 までの時しか利用でき
ません。
- (Q) MT 中のデータを全てディスクに落としたい。
(A) OPENM の 14 を使う。
但し、ALL BACKUP で作成したテープについては、対応するログ・データのファイルがディスク上にあれば、ALL RESTOPRE で
扱うことが可能。
- (Q) MT に ALL BACKUP したデータセットを、ディスクに落としてみたのだが。
(A) MULTIPLE SAM でまとめて落としてしまうと、区分編成データセットもそのまま (順編成のまま) 落ちてしまうので注意。
- (Q) テープが読めない。
(A) テープが古過ぎて物理的なダメージを受けていた。保存状態にもよるが、一般に 5 年程度で劣化する (使用できなくなる) と考
えておいた方がよい。
- (Q) カートリッジ MT が読めない。
(A) 800 MB のテープを MT31 (200 MB 専用) にかけてため。
- (Q) MTL の使い方について知りたい。

- (A) センターニュースの記事「MTL のサービス開始について『MTL の使い方』」(Vol.23, No. 4 (1991 年 7 月), pp.42-52) を参照してください。なお、1996 年 3 月末の汎用機の入れ換えに伴い MTL 装置及びカートリッジ磁気テープ (CMT) の仕様が変更され、現在では、高密度のテープ (倍密度・倍トラック) の利用により大容量化しています (容量は約 800 MB。さらに、自動的に圧縮して書き込みますので、データの内容にもよりますが、1 GB ~ 2.4 GB 程度のデータを保存できます)。この移行等に関して、センターニュースの「磁気テープライブラリ (MTL) 装置に関するお知らせ」(Vol.28, No. 3 (1996 年 5 月), p.6) も参照してください。

1.8 ファイル転送、PC からの利用等

- (Q) 文字化けをする。
モデムの設定は？
- (A) 接続先となるセンターの受け口 (電話番号) にもよりますが、普通は (03-3815-6391) モデムの設定は、データ長 8、パリティなし、ストップビット 1 とします。詳細は、スーパーコンピューティングニュースの裏表紙の裏面を、さらに詳しくは、センターニュースの記事「電話回線利用 TSS サービスの変更について」(Vol.28, No.2 (1996 年 3 月), pp.20-26) を御覧ください。
また、VOS3 (m-vos) に telnet で接続する場合、デフォルトのライン・モード MP5800L ではなく、フルスクリーン・モード MP5800F をお試しください。

- (Q) VOS3 との ftp によるファイル転送について
(転送時の文字コードの変換は？)
(レコード長が 80 になってしまう)

- (A) VOS3 側から ftp クライアントを起動した場合は、SETCODE や LOCAL サブコマンドを用いて、変更や指定をします。

```
[例] ftp: setcode euc  
ftp: local a recfm=vb,lrecl=255,blksize=...,space=...
```

PC や WS から ftp クライアントを起動した場合は、QUOTE サブコマンドを用いて、VOS3 側の ftp サーバに対し同様の指定をします。

```
[例] ftp: quote setcode euc  
ftp: quote site set a recfm=vb,lrecl=255,blksize=...,space=...
```

詳しくは、センターニュースの記事「TCP/IP による主システムの利用について」(Vol.24, No.6 (1992 年 11 月), pp.76-102) を参照して下さい。

- (Q) パソコンで作成したファイルをセンターの UNIX マシンに ftp すると、改行が ^M になっていたり、ファイルの最後に ^Z が入っていたりする (ftp したプログラムをコンパイルできない)
- (A) パソコン側の ftp の設定およびテキストモードによる送受信により、MS-DOS の改行コード (0x0d0x0a) を UNIX の改行コード (0x0a) のみにすることが可能なはずですが、パソコンの ftp およびネットワーク関連マニュアルを参照して下さい。
- (Q) m-unix に送られてくるメールを Eudora で操作したいのですが、設定は？
POP のサービスは？
- (A) m-unix を含むセンターサービス機では POP のサービスはしておりません。従って Eudora 等のソフトはご利用になれません。

1.9 その他

(Q) センターでは MO や Zip ディスクを使えますか？

(A) センターでは、館内 1 階に設置してある媒体変換用 WINDOWS PC で以下のドライブが利用できます。

MO	128, 230, 640MB, 1.3GB
CD-R/RW	650MB
SuperFD	120MB
Zip	100, 250MB

(Q) センターニュースの記事をファックスで送ってほしい。

(A) VOS3 上の CNEWS コマンドのファックス出力でどうぞ！

(Q) センターのサービス機の IP address を教えてください。

(A) センターニュースの表紙裏に一覧表があります。ただし、将来システム構成の変更等により IP address を変更することがありますので、今後は IP address を公開しないようにする予定です。m-unix.cc.u-tokyo.ac.jp, m-vos.cc.u-tokyo.ac.jp といった DNS (Domain Name Service) によるホスト名を用いて参照するようにしてください。

なお、このホスト名による接続は FDDI 接続となります。現在、DNS によるアクセスができずに直接 IP address を指定している方は、担当のネットワーク管理者とご相談の上、Domain Name Server を参照してホスト名でアクセスできるよう環境を整えるようにしてください。

(Q) ～～というアプリケーションを使いたいのですが、センターで導入してもらえないでしょうか？

(A) センターへの要望として、文書にて御連絡ください。指導員室は、ユーザーのボランティアによって運営されていますので、(センター側に伝言はしますが) 基本的にこういった「要望」にはお答えできません。

(Q) JPNIC はここですか？

(A) JPNIC ((社) 日本ネットワークインフォメーションセンター) の事務局は、現在は、センターにはありません。詳しくは、JPNIC のホームページ (URL <http://www.nic.ad.jp/>) をご覧下さい。

(Q) ... ecc.u-tokyo.ac.jp に関して、...

(A) 教育用計算機システムにて提供しているサービスに関するご質問は教育用計算機システムのホームページ (URL <http://www.ecc.u-tokyo.ac.jp/>) をご覧下さい。

2 困った質問

(Q) MSL2 を研究室の WS/PC で使いたいのだが、ソースを一式転送するには？

MSL2 を研究室の WS/PC でコンパイルすると。

xxx というライブラリプログラムを譲ってほしいのですが。

(A) MSL2 のように、センターのライブラリプログラムでソースプログラムを公開しているものが多数ありますが (特に、VOS3 上)、質問のような行為は、「東京大学大型計算機センタープログラムライブラリ内規」の第 4 条で

(利用者の責任)

第 4 条 プログラムの利用および利用結果に対する責任は、全て利用者が負う。

...(略)...

4. 利用者は、他のシステムへのプログラムの移植、第三者への譲渡およびそれらを目的とした複製を行なってはならない。

と、禁止されています。公開されているライブラリプログラムは、当該システム上でのみ利用・活用して下さい。

(Q) パソコンで作ったデータが読めない。

(A) この質問は、まずパソコン上のワープロ（あるいはワープロ専用機）を使いはじめ、それからセンターのサービス機を利用するユーザーによく見られます。こういう事例の原因は大きく二つに分類できます。

一つは、「行」の概念がないことです。大型汎用機用の application、及びそれをベースに移植したものは、必ず入出力データに「カード」、「レコード」或は「行」といった単位を想定しています。FORTRAN, C といったプログラミング言語はもちろん、SAS などの統計パッケージ、その他のライブラリ・パッケージも、ほとんど全てこの「行」という概念を必要としますので、入力データの各行の末尾には行末コード（いわゆるリターンコード）が必要です。一方、ワープロでは、文章が行の右端に達した場合には（行末コードを入れないままに）自動的に次の行の左端にデータが続きます。行末コードを使うのは、段落を替える時です。このため、ワープロ育ちなユーザーが、例えば 3 行必要なデータを、3 行分の長さのある長い 1 行のデータとして作ったりすると、「データが読めない」ということになるわけです。

次によくある事例が、いわゆる「全角スペース」(2 バイトの漢字 1 文字として表される空白 (スペース) のこと) の問題です。application で入力データを扱う際に、データとデータの区切りとして「空白 (スペース)」が使われるのがほとんどですが、この場合の「スペース」はいわゆる「半角のスペース」(1 バイトで表される空白 (スペース) のこと) である必要があります。これは、「全角のスペース」は漢字の一つと見なされるため、空白と判断されないためです。また同様に、数字についても半角の数字を使う必要があります。半角の数字 (1, 2, 3, ... など) は正しく数字として解釈されますが、全角の数字 (1, 2, 3, ... など) は全角のスペース同様、漢字の一種と見なされ、数字としては読み込まれません。

また、パソコンの (表計算等の) ソフトでデータを作成した場合には、ファイルにセーブする際に、区切り文字を何にするかとか、テキスト形式のファイルとしてセーブする等の注意も必要です。

3 終わりに

ここに挙げた質問とその回答集は、センターに寄せられる質問の一部に過ぎませんし、必ずしも、現状に即しているとは限りません。センターからは、スーパーコンピューティングニュース、login message、サービス機上のファイル、Net News などを通じて、最新の情報を広報していますので、これらの情報も常に確認するようにしてください。特に、Unix 系のサービス機上では、show-info コマンドが用意しており、編集 / 印刷 / 出版までに時間のかかるスーパーコンピューティングニュースによる広報に比べ、より即時性のある情報が得られるようになっています。また、本稿の内容はセンターのホームページ

<http://www.cc.u-tokyo.ac.jp/>

中にも掲載しています。これらも併せてご利用ください。